

今、小・中学校において、特別支援教育がとても重要視されています。現在では、特別支援学級の生徒にだけ施すものではなく、全生徒に対してできるだけ多くの教職員が関わって支援を行っていくという考え方が基本となっています。ひとつの授業に複数の教職員がつくことも日常的となっており、通常学級の中にも、「先生の指示がなかなか分からない」とか、「黒板の書き写しに時間がかかる」など、支援を必要とする生徒は見られます。なるべくその生徒自身で追いつくことができるようになるまで、特別支援教育支援員を配置したり、通級指導教室を開設したりして支援を行っています。また、一人1台のタブレットパソコン供与も支援策のひとつとも言えるでしょう。（現状、その使用の在り方に課題のある生徒が増えているため、学校にて保管するようにしています。）「個別最適な学び」のお手伝いが少しでもできるよう、学校では人的・物的支援を行い、学習や生活の支援を行っています。